

松本大学と地域をつなぐ情報誌

ゆめ通信

Vol.19

2011.4.4

地域づくりサミット開催
産学官民協働プロジェクト紹介

木曾平沢を伝えようプロジェクト
米粉PROJECT

学生ゆめ

OB・OG特集

東日本大震災

～被災地におけ、今私たちができること～



学校法人松本大学
松本大学

“ゆめ”の由来…結芽『ニーズの芽を結ぶ場所』+夢+遊眼『遊び心の視点を持つ眼』
地域づくり考房『ゆめ』は、大学で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に生かしていくことを目指しています。

つながる・発信する 地域づくりサミット

平成 23 年 3 月 9 日（水）に松本大学において、「地域づくりサミット」を開催しました。

市民・NPO や行政・大学関係者、学生など各界の地域づくり関係者、県内外約 100 人が集まり、今年度の地域づくり活動のまとめと来年度の道しるべとなる「地域づくり宣言 2011」をつくりました。

学生チャレンジ奨励制度や産学官民による地域との協働事業、松本大学地域づくりコーディネーター認定者による報告と今後の展望を話し合いました

テーマ別 パネルディスカッション



地域の活性化

コーディネーター

宮澤 万茂留さん

（安曇野市豊科総合支所地域支援課課長補佐）

パネラー

細江 友美さん（短大 2 年 / 上高地線応援隊）

櫻井 遼さん（総経 3 年 / 松風連）

高野 綾さん（観光 3 年 / 木曾平沢を伝えよう）

荻村 彰さん（地域 / 木曾平沢を伝えよう）

清水 進さん（地域づくりコーディネーター）

地域で活動する若い人はまだまだ少ないのが現状です。学生が地域と関わることで、学生は地域の方から刺激を受け成長でき、地域にとっては若者の視点や企画力をいかして地域の活力につなげていく。お互いに良い関係を築くことが重要と言えます。

そして、地域の活性化のためには、今ある素材をつなぎ合う「人」が重要になります。地域にはまだまだ面白い人がいるはずなので、その人と若者の視点がつながれば、地域づくりの新しいスタイルになるのではないのでしょうか。（宮澤）



地域の縁側

コーディネーター

堀内 泉さん

（塩尻市協働のまちづくり推進委員）

パネラー

塩原 ひかりさん（観光 3 年 / こどもあそび隊）

竹内 希さん（観光 3 年 / Sign）

若林 みどりさん（観光 1 年 / 新鮮☆ゆめ市場）

保苅 美千代さん（地域 / 新鮮☆ゆめ市場）

橋本 和子さん（地域づくりコーディネーター）

地域づくりを考えていくうえで、いつも話題に上がることは、人との交流やネットワークづくり。それだけ基本的なことであり、大切なことなのだを再確認できるパネルディスカッションでした。

地域の特色やイメージにより地域の縁側も変わってくるのだと思います。その地域ならではの縁側ができて、地域づくりに関わっている人と関わっていない人とが気軽に交流でき、活動を試みようと思う人が少しでも増えていくことを期待したいです。（堀内）

※学生は開催日当日の学年表示

参加者の声

これだけ地域の方々に参加しているのはすごいと思います。地域の皆さんと一緒に取り組んでいるということが実感レベルでよくわかりました。／時間的にはかなりタイトでしたが、内容は素晴らしいものかつわかりやすかったです。大変勉強になりました。ありがとうございました。／学生さんも地域の方々もいきいきと「地域づくり宣言」づくりに取り組まれている姿が印象的でした。／いろいろな立場の人が、ひとつの思い「地域づくり」に向かって、場を共有できました。／若い人の意見がとても素晴らしく「今時の…」といわれる中で、こんなにしっかりした人たちがいることが大きな社会の力になると思いました。



地域と食農

コーディネーター

三村 伊津子さん

(松本市地域づくり推進市民会議委員)

パネラー

尾和 美沙紀さん (栄養2年/ヘルシーメニュー)

戸田 有香さん (栄養4年/sweets)

村田 浩美さん (栄養1年/米粉PROJECT)

矢島すみれさん (地域/米粉PROJECT)

等々力 秀和さん (地域づくりコーディネーター)

地域の方と協働して商品化まで進んだ事例もあれば、なかなかうまくいかなかった事例もあり、会場全体で活動を考えなおすきっかけになりました。

地域でつくられる食材であったり、昔から伝えられてきた食べ物であったりと食には物語があるということのを再認識できました。

こうした物語を知り学ぶためにも、地域と大学・学生との橋渡しをしてくださる方を地域の中からみつめることが必要になってきます。(三村)



地域と子ども

コーディネーター

中村 健さん

(山形村子ども会育成会会長)

パネラー

中田 大祐さん (観光4年/子ども見守り隊)

東間 健太さん (スポーツ2年/キッズスポーツスクール)

鈴木 陽一さん (総経3年/33がわりプロジェクト)

高橋 りえさん (地域/33がわりプロジェクト)

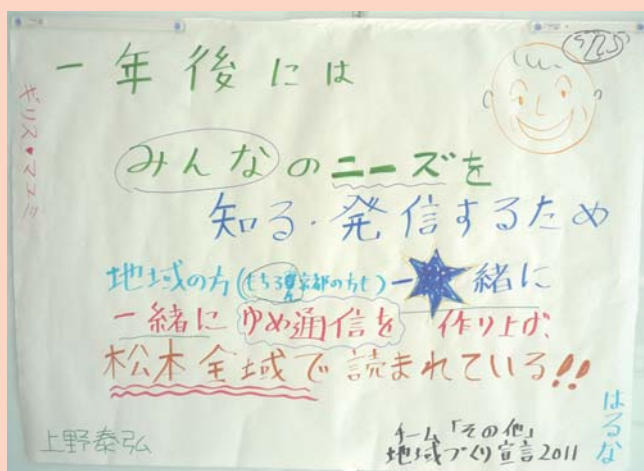
三戸呂 三都子さん (地域づくりコーディネーター)

普段はなかなか接点を持つことができなくても、何か活動をすることで、学生や地域の方が子どもと関わるきっかけをつくることができます。また支援を受けた子が、「将来は支援する側にまわりたい」という想いが育っていて、一方的な支援ではなく、相互の支援に発展していくことができると感じました。

地域の方々子ども、学生、障害のある人や保護者など様々なネットワークがあると、豊かな心で支えあえる地域になると思います。(中村)

みんなでつくろう 「地域づくり宣言2011」

10年後の地域の姿を描きながら、1年後こうなっている！という具体的なイメージを9つのグループでつくりました



- 1年後、つながりのある地域へ
- 世話好きが誰からも好かれる私のまち!
- 1年後に地域は課題だらけ。みんなで地域を良くしましょう!
- 互いに顔が見える市民ネットワークがすすみ、互いにサポートし合っている
- 1年後の地域は若者が参加し、お年寄りの居場所が増えている!



(ふ)普通に(く)暮らす(し)幸せを楽しんでいる!



一人でも多くの人が、声を出せない人の存在を知っている



1年後には大切な命を救うためにも、自殺予防のネットワークづくりを急いでいる



産学官民協働プロジェクト紹介

これまで、塩尻市とは市民活動支援課（元地域づくり課）と連携し、学生発の産学官民協働の「和みの道プロジェクト」等実施してきましたが、今年度その縁から他の課との連携による2つの産学官民協働事業が進められました。

1つは塩尻市商工課・観光課発の産学官民連携事業で、木曾漆器祭実行委員会・木曾漆器工業協同組合・松本大学による「木曾檜川賑わい創出プロジェクト」です。昨年3月に市から大学に依頼があり、「インターンシップ」という地域の問題課題に気づき、課題解決能力を講義と実践で学ぶ観光ホスピタリティ学科の正課科目で取り上げ、今は考房『ゆめ』の自主活動として進められています。

もう1つは本学学生発の産学官連携事業で、チロルの森・塩尻市農林課による「米粉プロジェクト」です。他の商品開発プロジェクトに参加し、課題を持った学生からの相談から始まり、メンバーを募り進められています。

出発点は違っても、それぞれの思いを共有しながら活動を展開し、この程、若者が紹介する木曾平沢パンフレットと塩尻産米粉使用の「米（こ）一なつ」が完成しました。

パンフレット
作成過程



取材

木曾平沢を伝えようプロジェクト

私達は、インターンシップという講義の中で福島先生から紹介があり、木曾平沢の方々と関わることになりました。そして、4月のまち歩きをはじめとして、様々なイベントへ参加させていただきました。そこから、木曾平沢に埋もれている資源を見つけ出し、学生視点でのパンフレット作成を始めました。7人の学生と塩尻市役所の方、木曾平沢の方々と力をあわせて進めてきました。忙しい中で何度か木曾に行き来して調査をしたり、会議を行ったりと地域の方々との連携をとることの大変さを痛感しました。大変なことが多かった活動ですが、木曾の伝統的な様々なお祭りにメンバーと行けたことがとてもよい思い出になり、貴重な時間を過ごすことができました。

この活動を通して、様々な方々と出会うことができ、また、今まで知ることのなかった漆器の魅力を知ることができました。パンフレットが完成したら、長野県東京観光情報センター他・若者が出入りする場所などに置いていただく予定です。沢山の方に見ていただき、木曾平沢と漆器の魅力伝えることで、今後、木曾平沢により多くの方たちに足を運んでもらいたいと思います。

観光ホスピタリティ学科4年 北原 保奈美、塩原 ひかり



作戦会議



PC・
手書きで作成

昨年4月から松本大学との交流が始まり、色々な行事に参加する中で、自分の学生時代、子ども達の学生時代を何となく懐かしく思っております。

まちづくりワークショップでは大変新鮮に感じ、こんな話し合い、会議がこの地域でも出来たらいいなと思いました。また、この地域の業界への内容報告の時は、ややもすると大人は経験も実績もありますので学生さんの意見に対して、軽く考えるのではないかという心配がありましたので、「まず学生さんの意見、想いを聞いて下さい。」という事を強く訴えました。平沢駅周辺の環境、各漆器屋さんのお店の雰囲気等々、学生さんたちから誠にもっともな意見を頂き、地域の各団体、各お店も同じ想いもありましたので順次改善されて行くいいきっかけになりました。

今回学生さんと関わった事で、私自身も成長させてもらいました。ありがとうございました。

木曾漆器工業協同組合（木曾漆器祭実行委員会）荻村 彰



最終確認

塩尻市には、伝統的工芸品「木曾漆器」の産地である木曾平沢があり、毎年6月に木曾漆器祭・奈良井宿場祭を開催しています。近年は、消費者ニーズの多様化への対応、新たな客層への誘客宣伝等の課題を抱えています。そこで、大学生の皆さんによる視点を今後の運営に生かし、さらには、住民には気付かない地域の魅力を発見してもらおうと、松本大学地域づくり考房『ゆめ』と連携をしました。

学生の皆さんによるまち歩き調査、その後の大学祭への出展やパンフレット作り等の活動を通じて受けた提言や意見から、住民や行政に多くの「気づき」が生まれています。この「気づき」の一つ一つを一緒になって育てていくことが、まちや伝統産業に活力を与えていくと確信しています。

塩尻市経済事業部商工課兼観光課 百瀬 敬

完成！

米粉PROJECT

米 粉PROJECTは、現在使用されていない水田を有効活用するために、米粉用のお米の栽培をすすめている塩尻市で生産された米粉の消費拡大を目的とした商品開発で、現在、チロルの森と塩尻市、松本大学が提携して活動しています。

はじめは、以前先輩方が開発した米粉を使ったワッフルである「こっふる」の再販を試みましたが、「こっふる」は現在販売停止となっているため、引き継ぐ形で活動しようと考えていました。しかし、設備の問題やメンバーの「独自にレシピを考えたい」という事もあり、新しい商品を開発することになりました。

そこで、チロルの森との話し合いや試作を重ね、ついに焼きドーナツが完成しました。4月中旬からチロルの森と塩尻駅前にオープンする塩尻市観光センターで販売を開始する予定です。

今後はただ商品を開発して販売するだけでなく、5月の連休に販売のお手伝いをしながら、地域の方と直接ふれあい、みなさんからアンケートを取ります。どのようにしたら地域の方にこの活動や米粉を身近に感じていただけるのか考えていきたいと思っています。 健康栄養学科2年 村田 浩美

昨 年の秋、松本大学の福島先生から共同開発のお話をチロルの森にいただき、若い方が食を通して地域と関わるお手伝いができればとすぐにお受けしました。

私自身、三人の子どもの母親ですので、食に関しては関心が高く、『食べることは生きること！』と、よく子ども達と共に料理やおやつを作っております。

大学生ともなれば成分表や文献なども出てきて、小学生の子ども達とは違い、さすが！と驚かされました。今回の活動の中で1つの作品を作りましたが、ここまでたどり着くには試作、試食、反省会と試行錯誤の繰り返しで、本当に考えさせられる半年でした。

今後、地元の食材を生かし、『食』という分野から地域の役に少しでも貢献できたらと思います。松本大学の皆さんもそれぞれの分野から自分にできる事を見つけ、楽しく将来に生かして欲しいと思います。また私自身、このプロジェクトに参加できたことを本当にうれしく思います。

今後ともチロルの森共々宜しくお願い致します。 チロルの森 食の体験担当 矢島 すみれ

今 回、商品開発プロジェクトの学生さんから、地域の方と共同で地域食材を使った商品の開発ができないかといった相談を受け、取り組みがスタートしました。

学生の皆さんの「何かしたい」という意欲と、「やってみよう」という前向きな気持ちは、新鮮さと同時に懐かしさを感じました。その姿勢は皆さんに引続き持っていただきたいのと同時に、私自身にとっても自分を振り返るよい機会となりました。

これから新たに挑戦をされる学生の皆さんにも気に留めておいていただきたいのは、「社会では誰も正解を持っていないこともあり、取組も必ずしも目に見えやすい形になるとは限らない」ということです。現実の社会は知っている頭で考えることには収まらないことがほとんどであるからです。でも、だからこそ挑戦のしがいがあると思います。塩尻市として皆さんの気持ちを応援できればと思っています。 塩尻市経済事業部農林課農業振興係 上間 匠

商品開発プロジェクトの課題と成果への期待

協働コーディネーター；福島 明美

考房『ゆめ』では、これまで3つの商品開発プロジェクトが行われてきました。「こっふる」は学生主体の活動で、商品完成後製造販売して下さるNPOの協力を得て進められてきましたが、昨年5月を持って販売中止となりました。「スイーツ」は、20年度企業2社との協働事業で始まりましたが、メンバーの大半が卒業、企業も新たな起業展開となり、志し半ばにして解散。22年4月、唯一残った学生が、新たにメンバー募集し学生プロジェクトとして進めてきました。しかし、手作りでは時間がかかる商品の製造販売ルートが見つからず中断となりました。「ヘルシーメニュー」は、地域との連携で始まったプロジェクトで、数回にわたる合同会議を経て2商品を開発しましたが、地域側の都合でまだ商品化されていません。

これらの課題を受け、今回の学生からの申し出に慎重に対応し、塩尻市の協力を得て、製造工場を持つ「チロルの森」が紹介されました。現地視察と互いのコンセプトを確認しあい合意の結果、産学官協働による塩尻産の米粉を使った『米粉プロジェクト』が9月から始まりました。学生の想いが、塩尻市・チロルの森・考房『ゆめ』の教職員との協働によりカタチとなり育まれたプロジェクトです。学生は、地域の現状を知り、商品開発から販売までの過程の中でプロから多くの学びがあり、企業はPR拡大につながり、行政は休耕田利活用の促進と地場産業の拡大となり、お互いがWin-Winの関係となっています。今後、消費者に愛される商品となることを期待します。

これまでの
実施状況

塩尻市・
チロルの森と
提携開始



「こっふる」
再販断念
・新商品
開発決定



試作・
チロルの森との
話し合いの
繰り返し



こーなつ完成！

4月下旬より
焼きドーナツ
の販売決定

沖縄大学視察研修

自分たちが住む地域で活躍できる「人材」を育てるために、地域と密着した事業を行なっている沖縄大学で、3月1日～3日に視察研修を実施しました。今回の研修では、学生プロジェクト及び考案『ゆめ』の今後の活動展開に向け、新しいアイデアや課題解決のヒントを探しました。ここでは、学生が研修を通して学んだこと・気づいたこと・感じたことを紹介します。



たまぐすく花野果村を見学させていただき、新鮮ゆめ市場の参考になることがたくさんありました。なかでも、商品を置く棚が斜めになっていて、奥の物が見やすかったことが印象に残っています。また、レシピは自由に持っていけるようにすると、お客様の目に止まり、調理に活用されるのかと気づきました。商品の配置方法など印象に残ったことを写真に残したので、活動に活かしたいです。そこから更に新しいアイデアが生まれればいいなと思います。

魂魄の塔の見学では、言葉にならない思いを感じました。戦争の恐さを今までより深く感じ、とても貴重な体験になりました。

観光ホスピタリティ学科2年 村松 実可子

今回の研修で沖縄大学と松本大学の活動を比べると松本大学のプロジェクト数はすごく多いと感じました。また、私たちは活動をする中で、最初は先生が色々と指導しますが、ほとんどは学生達が自主的に活動していくのに対して、沖縄大学は先生主導の活動が多いのではという印象を強く感じました。また、実際に見える形にして学んでいくことや、大学で得たものを地域へ還元していくことが松本大学と似てる？一緒？なのかなと思いました。その他に、『PDCAでなくDCAP』まずは行動することが大切で、失敗してもそれが良い経験となつて次へ活かすことができると言っていたのは、確かにそうだなあと思いました。

沖縄大学の方々と交流して、繋がりが大切だと改めて感じました。私たちがならSignと難聴児支援33がわりプロジェクト。もちろん他のプロジェクトとも繋がって、さらに地域へ繋がっていくことができればいいなと思いました。地域につながるために、まずは地域の手話サークルへ参加させてもらい、できるだけ多くのろう者と関わりながら、活動していきたいと思いました。

観光ホスピタリティ学科4年 高野 綾

来年度への期待 (学生スタッフ・プロジェクトリーダー研修会より)

— 23.3.20 実施 —

今年の活動の成果

- ・障害への理解が深まった・幅広い年齢層との交流ができた
- ・地元のことを知ることができた・信頼されるようになった
- ・明るいあいさつができるようになった・表彰された…etc

活動上の課題点とその対応

- 商品やイベントのPR不足
 - ・掲示板の活用・楽しいPR方法を考える
- 準備不足
 - ・反省会場の設ける・企画ごとにリーダーを立てる
 - ・会議を重ねて計画を立てる・早めに行動する
 - ・下見や下調べをする
- コミュニケーションの問題
 - ・連絡が来たら必ず返信する・メール以外で連絡を取る
 - ・月1反省会や情報を共有する
- 備品管理不足
 - ・台帳を作成し、番号を割り振って管理する
- メンバーの問題
 - ・メンバーを増やすためにゆめカフェ等を活用し、PRする
 - ・責任感を持つためにみんなで役割を分担する
 - ・ルールを作って守れる人に参加してもらう

カンボジアの子どもに 夢を届けよう!

私は、地域の人達と交流を深めたかったので、フリマネット信州の活動に参加しました。活動を通じて、カンボジア支援の話を聞き、楽器や文房具が足りないので集めることにしました。カンボジアでは、貧困や地雷被害が続いていて、学校へ行きたくても生活が厳しく行くことができない子どもが大勢います。行けたとしても学用品が買えない家庭が多く、満足に勉強をすることができないという現状もあります。

そんな現状を知ってもらうため、2月23日に学内で「カンボジアの子ども達は今！」のビデオ上映会を行いました。上映会には、学部生2人、短大生4人が参加してくれました。カンボジアの状況を観た後、実際に現地へ行き活動を行ってきた立石さんのお話を聞きました。私はビデオを見て、貧しいゆえに子どもを売る行為があることを知り、とても悲しかったです。

今後は子どもたちのために、楽器や文房具を持ってきてくれるよう多くの学生に呼び掛けていきたいです。

松商短期大学部2年 場々 愛

学生ゆめ

OP♡OG特集

暖かい陽気が続き、春が近づいていますね。今回の学生ゆめはOB・OG特集です。この春卒業した先輩、学校を卒業して様々な活動をしている先輩の5名にお話をお聞きしました。春から何か新しく始めたいという方、先輩たちの話を参考にしてみてもいいでしょうか。



平成18年度卒業
赤羽 明恵さん

参加活動名
・信州の食文化

自宅の一部を改装し家族で“ベーカリー麦の穂”という小さなパン屋を経営しています。私が大学4年生の時に起業し、以来『安心・安全・美味しいパン』をモットーに5年が経過しました。夕方には地元の小学生が、近所の90歳代のおばあさんが散歩しながら、園児さんがお使いの練習に。遠方から車で来てくださる方も増えました。学生時代は私の人生の転換期でした。それまでは英語一筋でしたが縁あって松本大学で地域を学び、開業してからは様々な場面で考房『ゆめ』や教職員の皆様に応援して頂いております。考房『ゆめ』を通じて知り合えた多くの人々と食を通じたまちづくりを考える事ができたことが何よりの喜びであり収穫です。戸惑いながら、しかし確実に私自身の中で新たな可能性を見出すことができたのは私と麦の穂を支えてくださった皆様のおかげと感謝しております。

<在学生へのメッセージ>

『今できる事、今やりたい事、今感じている事、どれも無駄な事など決してありません。松本大学という素晴らしい環境で沢山の事を経験し吸収してください』



平成20年度卒業
宮坂 佳典さん

参加活動名
・キッズサッカー
スクール

立場が変わった今でも活動を続けています。サッカーが好きだった事、活動を通して指導者の勉強ができるのではないかという思いがあり活動を始めました。子供は正直なのですぐに態度に出ますし、保護者の方からの期待も大きくプレッシャーを感じることもありました。仲間同士の話し合いや子供たちに喜ばせるために様々なことを勉強するようになり『自ら勉強する』ことが身に付きました。それらのことは自分を高める一つの要素になりました。今では参加してくれる子供たちを楽しませるという目的から立場が変わり、活動をする学生の成長を見守っています。

<在学生へのメッセージ>

『社会人になるとなかなか時間がとれません。今のうちにやりたい事を思いっきりやりましょう。学外の人と接することは大きなチャンスです。様々な勉強ができ、魅力的な人になれる筈です。何もしていない人はこれから始めましょう。既に行っている人は頑張ってください』



平成22年度卒業
藤澤 唯さん

参加活動名
・Sweets
・こっふる
・松風連

私は、食品の仕事に興味があったため商品開発の活動を主に行なってきました。商品を考えるだけでなく、何度も試作し、レシピを作っていく、思っていた以上に根気のいる作業でした。特に難しかったのは商品生産を委託する企業との提携です。私達の考える商品・コンセプトと、企業にとっての利益や商品生産の実現性に合うように調整する事が、大変であり、重要なことだと実感しました。そこから食品に関わる者にとって、食べる人のことを考えることが大切だとわかりましたし、その中から食べた人に喜んでもらえる事にやりがいを見つけることもできました。今後栄養士として食事の提供をする際にも、今まで学んだことを忘れずに取り組んでいきたいと思っています。

<在学生へのメッセージ>

『学生時代にしか出来ない事は沢山あると思います。勉強はもちろん、自分のやりたい事にいっぱい挑戦して、悔いのない学生生活を送って下さい』



平成22年度卒業
野村 勝さん

参加活動名
・和みの道
・かえるまつり
・ゆめ撮影隊
・学生スタッフ

学生スタッフではスタッフリーダーを務めていました。学生スタッフになったのは、昨年度リーダーからの推薦を受けたからです。今年の1月に新年会があったのですが、企画・準備等はすべて学生スタッフが行ないました。今までの活動では、学生スタッフが空回りすることも多々あったのですが、最後に、完璧とまでは言えませんが、成功させることができてうれしかったです。

<在学生へのメッセージ>

『勉強だけが全てじゃない。学生じゃないとできないものがたくさんある。自分の夢を追いかけてみたり、ボランティアをしたり。興味があるなしに関わらず、いろんな門を叩いてみるのが大切だと思います』



平成22年度卒業
岩垂 朋美さん

参加活動名
・お店で楽しい縁側作り
・ゆめ通信編集委員

編集委員の仕事は文章を書いているだけではなく取材もあり、人と話すことが苦手だったので最初は大変でした。しかし、みすず屋さんのお客さんと話すうちに人と喋ることが楽しくなり、インタビューすることも面白く感じ、続けていくことができました。活動をしていて嬉しかったことは、自分が作ったゆめ通信が出来上がった時、一番達成感がありました。

<在学生へのメッセージ>

『学校生活はすぐに終わってしまいます。勉強や就職活動も大事ですが、それらばかりでなく自分のやりたいことも大切にして学生生活を楽しんでください』

被災地にむけ、今私たちができること

義援金・ボランティアについて

今回の震災により、多くの人々やモノが犠牲になりました。この状況を再建していくには、日本全体で多くの支援が必要だと思います。そこで、“地域づくり考房『ゆめ』”のプロジェクトの一つである、「信濃 X」「カンボジアの子どもに夢を届けよう」が立ち上がり、学外・学内での募金活動を始めました。また、ボランティア活動等の情報提供を行っております。関心のある方は“地域づくり考房『ゆめ』”までお問い合わせください。

①学内外の募金活動

- ・カタクラモール北口で募金活動を行い、現在約 30 万円以上の募金が集まりました。今後も募金活動を行います。一緒に活動しませんか。
- ・岩手県立大学学生が、災害支援活動を始めようとしています。現地に行くことのできない同じ学生である我々で、義援金を募り、活動費（交通費など）にあててもらいたいと思います。皆様のご協力よろしく申し上げます。

②避難者受入れ場所でのボランティア活動

- ・松本市里山辺にある、ログハウスで災害避難者の受け入れがあり、そこでの物資の仕分や食事等の活動を行ないます。

信濃 X 代表；健康栄養学科 2 年 梶原 悠

震災時において皆で出来ること

この度の東日本大震災における救援活動について、在学生の皆様の中には様々な考えや葛藤をお持ちの方がいるかと思えます。まずは「今だと!!」と思える時に行動して下さい。同じ思いを抱いている人が他にもいる筈です。学内外に呼び掛け巻き込んで下さい。そのことで、ひとりの想いから大きな力に変わっていきます。

学生時代、先生や学生たちと実際に現地へ出向き、長岡市と小千谷市のボランティアセンター経由で活動をしました。最初の目的は現地でのニーズ集めと実際の被災状況の確認でした。が、被災の規模は大きく、復興までの長い道のりの険しさと住民それぞれが抱えている問題の多さに直面し、ただただ脱帽しました。

今後皆様が活動する場合は、事前に現地ニーズを収拾し、その場限りではなく、長期的に続けられることを見い出して下さい。このような状況下に置かれている方々への支えになり、私たちがしていける行動が一番役立てることかと私は思います。

こういう時だからこそ、私たちひとりひとりがしていける事をみんなの手で広げて行く事が大切だと思います。私たちの輪で被災地の方々に出来ることが沢山ある筈です!!

平成19年度卒業 石田 健

◆つぶやき◆

4年間を振り返ってみると、本当にいろいろなことがありました。中でも、考房『ゆめ』…もとい、松風連での活動の日々は、多くのものを学ばせてくれました。2年次までは単なる1メンバーでしかありませんでしたが、3年次に松風連代表を務め、本格的に考房『ゆめ』と関わるようになって以来、私を取り巻く環境は一変しました。良くも悪くも毎日が充実し、楽しいこともありました。が、苦しいことも多く経験してきました。乗り越えられてきたのは、ひとえに「仲間」の存在があったからです。私も、精神的に大きく成長したと実感しております。出会いと経験と成長…考房『ゆめ』で学生時代を過ごせたことを誇りに思います。

平成 22 年度卒業 奥原 芳紀

東日本大震災で 私たちでもできること

2011年3月11日午後2時46分ごろ、三陸沖を震源に国内観測史上最大のM9.0の起きた大規模な地震により、津波、原発などの被害が日々報道されている中、比較的被害の少ない地域の人たちでもできることはないのか、と思い活動を始めました。

募金

学内やお店などに出ている募金箱に入れる。個人で物資を送る行為よりも募金のほうが、よろこばれます。募金詐欺などには要注意。募金をする際、必ず目的や送金先を確認してください。

買い溜め注意!

被災地以外でも品薄、という事態に陥っています。買い物をする前に、一旦頭を冷やし「本当に自分にはこんなに必要か」を考えてください。こんなときだからこそ譲り合いの精神を大切にしてください。そして、消費する心も忘れないでください。地震で、連日続いている円高に拍車がかかっています。買い物を自粛すると経済はどんどん悪化していきます。

■地震が起こる前、地震が起こった後行動する前に

- ・もし、地震が来ても電話はできる限り使わないでください。回線が混んでしまいます。
- ・災害用伝言版、ダイヤルなどの電話以外の連絡手段を事前に家族と話し合ってください。
- ・献血に行かれる際、血はナマモノ、ということをお頭に置いて、同じ時期に献血しないでください。
- ・大きな地震の後は情報が飛び交うので情報の取捨選択を大切に、節電といってもテレビやラジオ、インターネットは消さないでください。

代表；松商短期大学部 2 年 森田 美野

松本大学ゆめひろば閉館のお知らせ

3月31日をもって、諸般の事情により松本大学ゆめひろば(松本カタクラモール内)を閉館することになりました。地域の皆様のご支援ご愛顧に心よりお礼申し上げます。

お問い合わせ、ご意見、ご質問、ご感想等
ありましたら下記へご連絡下さい。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

Tel : 0263-48-7213(直通)

Fax : 0263-48-7216(直通)

E-mail : community@matsu.ac.jp